

【彙報】

①展示会・講演会開催報告

浜松展示会・講演会

東亜同文書院大学記念センターが主催する展示会「東亜同文書院の45年、愛知大学の70年—愛知大学記念館所蔵コレクション展」を、7/11(火)～7/17(月・祝)の1週間、クリエート浜松にて開催しました。2006年から、横浜、東京、弘前、福岡、神戸、シカゴ、京都、米沢、名古屋、富山、那覇、長崎、岐阜、広島、松本、名古屋にて開催し、今回の浜松が17番目となります。

東亜同文書院から愛知大学への歩みについて、また、東亜同文書院ゆかりの近衛篤麿、文麿父子の書、中国革命の推進者孫文や彼を支援した東亜同文書院職員山田良政、同卒業生純三郎兄弟に関する資料などを展示しました。さらに、今回の会場の地元静岡から東亜同文書院に入学した人々の足跡についても紹介しました。中には静岡出身の東亜同文書院生を紹介する展示物の中に親族の名前を見つけて懐かしがる方もお見えになりました。

7/11(火)には、講演会を開催し、川井学長のご挨拶につき、三好センター長から「愛知大学70周年と更なるブランドづくり」、新井野前地域政策学部部長から「地域貢献と愛知大学」、藤田名誉教授から「近衛家と東亜同文書院、そして愛知大学」と題した講演がなされました。講演会には、同窓生、一般の方を含め60名が参加者され、展示会には、350名の方が来館されました。

なお、中日新聞、静岡新聞が取材にこられ、掲載されました。静岡県西部地区の方々へ「愛知大学」、「東亜同文書院」の名前と115年に及ぶ大学史を広める良い機会となりました。

東亜同文書院の45年 愛知大学創立70周年記念事業
愛知大学の70年 浜松展示会・講演会
クリエート浜松

住所：浜松市中区早瀬町2番地の1 TEL：053-433-3311

◆浜松駅乗り換え10分
◆遠州鉄道「孫神神楽殿」裏側
◆遠州鉄道バス「橋組合停留所」「警備所」バス停下車

予約不要・入場無料

■愛知大学記念館 所蔵コレクション展
2017年7.11(火)～17(祝) 9:30～18:00
10:00～19:30 (8/7/17のみ10:00～16:00)

■講演会
2017年7.11(火) 9:30～10:30

13:30～14:30 あいさつ
13:40～14:10 「愛知大学70周年と更なるブランドづくりをめぐって」
三好 康 (東亜同文書院大学記念センター長、現代中国学部教授)

14:10～14:50 「地域貢献と愛知大学—「知を愛し世界へ」と「新夜響」未来へ—」
新井野 洋一 (地域政策学部教授、自治体学部長)

15:00～15:45 「近衛家と東亜同文書院、そして愛知大学」
藤田 任次 (愛知大学名誉教授、東亜同文書院大学記念センター長)

愛知大学記念館所蔵コレクション
近衛家1代の書
孫文の書
山田良政の書
純三郎兄弟の書

愛知大学記念センター
〒441-6522 愛知県浜松市可成町1-1
TEL:0532-47-4139 FAX:0532-47-4196
E-mail: 99@uni.aichi-u.ac.jp



【彙報】

②その他

名誉博士 平松礼二画伯特別展示会

愛知大学創立 70 周年を記念し、卒業生で本学名誉博士である平松礼二画伯の特別展示会を 2017 年 10 月 12 日（木）～11 月 14 日（火）の 1 か月間、大学記念館 2 階西側 7 部屋にて開催しました。

平松画伯自ら、築 109 年の明治近代遺産である「愛知大学記念館」（旧陸軍 15 師団司令部・国の登録有形文化財）での展示レイアウトを手掛けられ、原画作品 58 点と屏風 6 点を厳選されました。日本各地、東海地方、中国、フランス・ジャポニスム、「文藝春秋」の表紙画など多彩な大作を展示公開することができました。来館者数は 2,564 名と、大学記念館での催しのなかで過去最多の来館者数となり、大盛況の毎日でした。

多くの方から意見、感想が寄せられました。

【来館者の感想】

- ・ 催しがあって本学旧本館を卒業後久しぶりに立ち寄れたことにうれしさを感じます。
- ・ 近代美術館ではない築 109 年の日本建築での日本画展示に、相性の良さを感じ、感動しました。
- ・ 今日で 4 回目です。著名な美術館での開催の場合、鑑賞というより人を見ることがになるが、ここはゆっくりじっくり鑑賞でき、感動の日々です。
- ・ すばらしいの一言！でした。すてきな時間でした。
- ・ 友人に誘われて来て、感動しました。生きていて良かったと思いました。いつまでもこの中にいたいと思います。
- ・ 初めて原画を直で拝見させていただきました。すばらしい色彩で感動しました。同窓の先輩がこのような活躍されている事に嬉しさを感じます。私も写真を撮りますが、先生を目標に頑張ります。



愛知大学創立70周年記念 名誉博士 平松礼二画伯 特別展示会 日本画から世界画へ



行く夏の夕 100号P(2006年)



平松礼二画伯

本学の創立70周年を記念し本学名誉博士、卒業生である平松礼二画伯の特別展示会を開催いたします。今回の展示作品は、著名な日本画家である平松画伯自ら厳選され、レイアウトされたものです。日本各地、東海地方、中国、フランス・ジャポニスム、「文藝春秋」の表紙画など多彩な作品が展示されます。築109年の明治近代遺産である「愛知大学記念館」(旧陸軍15師団司令部)に原画作品58点と屏風6点の大作が公開されています。

平松礼二画伯は、1961年愛知県立旭丘高等学校美術科から本学へ、1965年に本学法経学部をご卒業後、日本画家として活動され、第1回中日大賞展大賞、第10回山種美術館賞展大賞、第12回MOA美術館大賞、第57回中日文化賞等を多数受賞、2000年新年特別号から11年隔月刊「文藝春秋」132冊の表紙画を担当、日本を代表する画家のひとりです。また、フランスのジヴェルニー印象派美術館やドイツのベルリン国立アジア美術館からの招聘等により展覧会が開催され、国内のみならず、海外でも活躍されています。さらに、多摩美術大学教授、了徳寺大学学長、順天堂大学客員教授を歴任され、次世代の才能育成にも精力的に取り組んでこられました。

2017.10.12(木)~11.14(火)

<日・月曜日閉館 ※11.3祝・11.5日・11.12日は開館>

10:00~12:00、13:00~16:00

愛知大学豊橋キャンパス 大学記念館





【彙報】

②その他

愛知大学同窓会創立 65 周年記念『愛大芸術フェア』

同窓会 65 周年記念事業として、また愛知大学 70 周年記念事業の一環として、全国総会の前後 2 週間（10/31～11/14）、愛知大学記念館 2 階東側 5 部屋にて『愛大芸術フェア』が開催され、本学 OB、OG、7 名の写真、絵画、似顔絵作品が展示公開されました。記念館 2 階西側 7 部屋には、本学卒業生で名誉博士平松礼二画伯の 150 点の日本画が併設展示され、来館者は 2 週間で 1,744 名と、大好評裡で終了いたしました。

【展示品出品者】

写真：東松照明（昭和 29 年卒）、鈴木智明（昭和 38 年卒）、八木祥光（昭和 38 年卒）
山本宏務（昭和 39 年卒）、新村猛（昭和 40 年卒）

絵画：山口恵里子（昭和 46 年卒）

似顔絵作品：大岡立（昭和 47 年卒）



鈴木 智明 (S38 卒) 八木 祥光 (S38 卒) 山本 宏務 (S39 卒) 新村 猛 (S40 卒)

＝特別出展＝

愛大芸術フェア 絵画・写真展

平松礼二画伯の特別展と併設し、愛大OB、OGの作品展
会場・愛知大学豊橋キャンパス内
愛知大学記念館

2017年10月31日(火)～11月14日(火)
10:00～16:00

11月4日(土)、5日(日)は式典の為、観覧場はご利用できません。
公共交通機関をご利用ください。

東松 照明 (S29 卒)
昭和5年～平成24年
経済部経済学科を卒業。
戦後日本有数の社会系カメラマン
として、海外での評価も高い。

山口 恵里子 (S46 卒)

大岡 立 (S47 卒)

入場無料





【彙報】

②その他

名鉄ハイキング

2015、2016年度に実施されたJR さわやかウォーキングに続き、2017年度は名古屋鉄道が主催し、豊橋鉄道が共催した「名鉄ハイキング」のコースに愛知大学記念館が選ばれました。

◇コース名／“国重要無形民俗文化財「豊橋鬼祭」と29種400本の豊橋うめまつりコース”

今回の「名鉄ハイキング」は、愛知大学をスタート地点とし、参加者は総勢1,292名、うち大学記念館に813名が来館されました。天候を心配し先を急ぐ方もいましたが、晴れ間ものぞくハイキング日和となりました。豊橋鉄道渥美線愛知大学前駅を降り、本学豊橋校舎からハイキングをスタートした6割強の方が大学記念館に来館され、多くのコメントをいただきました。

【来館者の感想】

- ・わあ、すごい！！レトロな建物だあ！！
- ・階段の「ミシ、ミシッ」という音がいいですね。
- ・私はちょうど50年代の者です。寮の様子展示物を見て昔を思い出しました。
- ・愛知大学を卒業した者です。この大学はほんとにすばらしい大学だったんだよ。
- ・入館してみたらとても素敵な建物で、こんな歴史のある大学だったなんて感動しました。

昨年リニューアルした展示室では、史資料の説明パネルやキャプションをじっくり読まれる方や、愛知大学公館、学生寮、昭和20～50年代の学生生活等の写真パネルを見て懐かしがられる方がおられました。「東亜同文書院45年、愛知大学70年」の歴史を誇る愛知大学を体感していただけたことを嬉しく思います。

“国重要無形民俗文化財「豊橋鬼祭」と29種400本の豊橋うめまつりコース”

愛知大学校内→愛知大学記念館→向山緑地梅林園(うめまつり)→石畳を走る路面電車→秋葉山常夜灯と東惣門→安久美神戸神社(豊橋鬼祭)→ヤマサちくわ本店→ココアアベニュー2F



東亜同文書院大学記念センター展示室利用状況(2017年度)

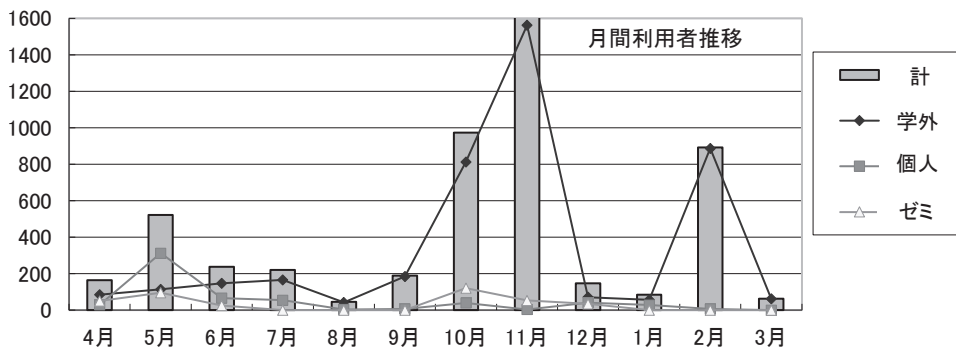
2017年3月21日現在

	学外	学内		(団体数)	計	(うち外国人)
		個人	ゼミ			
4月	85	29	50	3	164	0
5月	114	312	96	3	522	18
6月	147	66	25	2	238	0
7月	166	55	0	0	221	6
8月	42	4	0	0	46	3
9月	184	6	0	2	190	0
10月	813	40	121	0	974	1
11月	1563	4	53	0	1620	0
12月	71	41	35	0	147	8
1月	57	28	0	0	85	0
2月	887	6	0	0	893	0
3月	63	0	0	0	63	0
計	4,192	591	380	10	5,163	36

(ゼミ2クラス)
 (ゼミ3クラス)※「個人」に文学部1年生ガイダンス利用者(304名)含む
 (ゼミ1クラス)
 オープンキャンパス(111名)※「個人」に現代中国学部1年生豊橋キャンパス
 オープンキャンパス(77名)
 (ゼミ6クラス)
 (ゼミ3クラス)
 (ゼミ2クラス)

<予約参観記録> (敬称略)

- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|--------------------------------|
| 4月6日 | 笑って元気「すこやか」(21名) | 7月16日 | 豊橋校舎オープンキャンパス(111名) |
| 4月8日 | 豊橋ユネスコ協会(14名) | 7月22日 | 博物館学芸員課程実習生(2名) |
| 4月11日 | 東栄町教育委員会(2名) | 7月24日 | 南海大学(6名) |
| | 湖西市役所企画部(6名) | 7月25日 | 川西町へ行く学生の勉強会 |
| 4月21日 | 国立歴史民俗博物館(1名) | 8月9日 | 豊橋ユネスコ協会(6名) |
| 4月25日 | 豊橋商業高校(11名) | 8月25日 | 目白大学(4名) |
| 5月3日 | 大阪教育大学(1名) | 9月16日 | 文化財センター(20名) |
| 5月9日 | さわやかウォーキング団体(18名) | 9月24日 | 豊橋校舎オープンキャンパス(77名) |
| 5月11日 | 山形県川西町生涯学習課(2名) | | 高山市役所(1名) |
| 5月16日 | 愛知大学豊橋校舎復興を考える勉強会(9月29日) | 9月29日 | 豊橋南陽地区市民館市民講座(60名) |
| 5月19日 | 大阪大学ほか(2名) | 10月7日 | 神奈川大学(1名) |
| 5月20日 | 時習館高校(1名) | 11月4日 | 愛知大学同窓会総会 |
| 5月24日 | 美和高校保護者(30名) | | 愛知大学へ上海丸模型の寄贈並びに感謝状贈呈式 |
| 5月26日 | 豊橋コンベンション協会 | 11月7日 | 豊橋コンベンション協会、名古屋鉄道(1名)、豊橋鉄道(2名) |
| 5月31日 | マレーシア学生豊橋スタディツアー(15名) | 11月13日 | 上海中学(1名) |
| 6月2日 | 豊橋東高校(1名)、藤ノ花高校(1名)、御井校(1名) | 12月5日 | 豊橋南陽地区市民館市民講座(10名) |
| 6月3日 | 豊橋コンベンション協会 | 12月12日 | 東愛知新聞社(1名) |
| 6月7日 | 豊橋市役所(2名)、豊川高校(2名) | 12月14日 | 筑波大学(1名) |
| 6月13日 | 奥三河ビジョンフォーラム(2名) | 12月16日 | 早稲田大学奉仕園(1名) |
| 6月15日 | 南陽地区市民館(1名) | 1月9日 | 新城市役所(4名) |
| 6月17日 | 愛知大学後援会父母教育懇親会(34名) | 1月23日 | 名古屋リビング新聞(1名) |
| 6月21日 | 山形県川西町まちづくり課地域振興グループ(2名) | 1月24日 | 中日新聞豊橋総局(1名) |
| | | 1月31日 | 朝日新聞(1名) |
| 7月7日 | 精華学園高等学校(13名) | 2月10日 | 名鉄ハイキング(813名) |
| 7月8日 | 現代中国学部1年生豊橋キャンパスツアー(36名) | | |



※以上は東亜同文書院大学記念センター集計による(確認できたもののみ)

【彙報】

②その他

2017年度記念センター活動記録（敬称略）

◇展示会・講演会

「東亜同文書院の45年愛知大学の70年」

主催：愛知大学東亜同文書院大学記念センター

後援：一般財団法人霞山会、公益財団法人愛知大学教育研究支援財団、愛知大学同窓会

「愛知大学記念館所蔵コレクション展」

日時：2017年7月11日(火)～17日(月)

会場：クリエート浜松

—講演会—

日時：2017年7月11日(火)

会場：クリエート浜松 ホール

【講演内容】

・講演1

三好 章（愛知大学東亜同文書院大学記念センター長、現代中国学部教授）

「愛知大学70周年と更なるブランドづくりをめざして」

・講演2

新井野 洋一（愛知大学地域政策学部教授、前地域政策学部長）

「地域貢献と愛知大学～「知を愛し世界へ」と「地を愛し未来へ」～」

・講演2

藤田 佳久（愛知大学名誉教授、元東亜同文書院大学記念センター長）

「近衛家と東亜同文書院、そして愛知大学」

◇特別展

「名誉博士 平松礼二画伯特別展示会」

日時：2017年10月12日(木)～11月12日(火)

会場：愛知大学記念館 2階西側展示室

「愛知大学同窓会全国総会・愛大芸術フェア」

日時：2017年11月4日(土)～12日(火)

会場：愛知大学記念館 2階西側展示室

◇センターに関する掲載記事・広告

・東日新聞「開学の志 形変え実現へ」

(2017.5.9)

・中日新聞【広告】「愛知大学創立70周年事業 東亜同文書院の45年愛知大学の70年」

(2017.6.28)

・東奥日報社「県人の関わりも鮮明に」

近着図書☆「近代日中関係史の中のアジア主義」馬場毅編

(2017.7.7)

・静岡新聞「愛知大と前身の東亜同文書院 孫文らの書など80点」

(2017.7.12)

・中日新聞「愛知大の歴史紹介 前身の東亜同文書院大も」

(2017.7.12)

・中日新聞「日本の風景 名作並ぶ 平松さん、母校愛大で絵画展」

(2017.10.12)

・東日新聞「平松礼二画伯特別展示会を撮る」

(2017.10.16)

・朝日新聞「戦時下 日本人学徒たちの上海」

(2018.2.28)

◇センター資料使用先一覧

川西町長 原田俊二

使用目的：川西町交流館内常設展示「アルカディア人物館」および町立小学校社会科副読本

使用資料：現物（計9点）

「玉庭尋常小学校卒業證書」、「雑記帳簿」、「船の絵」、「農學 壺」、「書簡（母・甥宛）」、書簡「①林毅陸学長退職の挨拶状写し、②本間喜一先生学長就任の挨拶状写し、③

愛知大学の現状について (①②③一綴り)」、(山形県、八生山のおふだ)、(東京オリンピック招致に関する書類のコピー)、「時計」

写真 (計8点)

「本間喜一肖像」、「愛知大学記念館外観」、「1944年頃の旧第一陸軍予備士官学校本部 (現愛知大学記念館)」、「上海にあった東亜同文書院 (大学)」、「造成中の校内を回る本間先生と用務員」、「本間家の人々」、「本間喜一・登龜夫妻と長男忠彦」、「玉庭で (家族写真、本間喜一13歳)」

使用日 : 2017年4月1日～2018年3月31日

山形建設株式会社

使用目的 : 山形交響楽団定期演奏会パンフレット

使用資料 : 「本間喜一肖像写真」、「愛知大学旧本館写真」

使用日 : 2017年6月3、4日

株式会社彩流社

使用目的 : 萩原稔・伊藤信哉著『近代日本の対外認識Ⅱ』

使用資料 : 「大村欣一東亜同文書院教授の顔写真」

使用日 : 2017年7月

株式会社現代書館

使用目的 : 旅の文化研究所編「旅の民俗」シリーズ 第3巻『楽しむ』

使用資料 : 写真「第13期生のうち江山西コース出発時の一行」

使用日 : 2017年10月20日

◇東亜同文書院大学記念センター運営委員会

・第1回

日時 : 2017年5月24日 (水)

会場 : 豊橋校舎 研究館 第3会議室 (TV)

名古屋校舎 厚生棟 応接室 (TV)

出席者 : 三好センター長、加納、神谷、クサカ、(事務局) 田辺、長本、藤田諭、伊藤綾

・第2回

日時 : 2017年7月7日 (金)

会場 : 豊橋校舎 本館 第1会議室 (TV)

名古屋校舎 厚生棟 会議室W31 (TV)

出席者 : 三好センター長、加納、黄、クサカ、(事務局) 田辺

・第3回

日時 : 2017年10月3日 (火)

会場 : 豊橋校舎 研究館 第1会議室 (TV)

名古屋校舎 厚生棟 会議室W31 (TV)

出席者 : 三好センター長、加納、黄、神谷、クサカ、(事務局) 田辺

・第4回

日時 : 2017年12月5日 (火)

会場 : 豊橋校舎 研究館 第3会議室 (TV)

名古屋校舎 厚生棟 会議室(W31) (TV)

出席者 : 三好センター長、黄、神谷、クサカ (事務局) 田辺、長本、伊藤綾

・第5回

日時 : 2018年2月28日 (水)

会場 : 豊橋校舎 研究館 第3会議室 (TV)

名古屋校舎 厚生棟 会議室W32 (TV)

出席者 : 三好センター長、神谷、クサカ、(事務局) 田辺、伊藤綾

◇センター関係者研究業績 (2017年3月～2018年3月)

三好 章

『根岸侘著作集』第4-5巻 (不二出版、2017年8月-11月)「東亜同文書院の近年の研究について」(中国人留学生史研究会第54回各台例会「東亜同文書院と日中関係」、神奈川大

学、2017年9月30日)、「東亜同文書院と東アジア——「大旅行」「従軍」「学徒出陣」——」企画分科会運営(日本現代中国学会第67回全国学術大会、愛知大学、2017年10月29日)、講評「東亜同文書院、アジア主義、対日協力政権——『近代日中関係史の中のアジア主義』『書院生、アジアを行く』『対日協力政権とその周辺』——」(中国現代史研究会、愛知大学、2017年12月17日)

藤田 佳久

佐藤恭彦共著『日本人学徒たちの上海——上海日本人中学校と東亜同文書院——』(あるむ、2017年12月)。「三遠南信地域における中央構造線文化軸」(和田明美編『道と越境の歴史文化』、青簡舎、2017年4月)、「幕末期に上海を訪れた日本人藩士たちと岸田吟香の行動空間」(『歴史地理学』第59号第3号、2017年6月)、「東亜同文会——教育者としての近衛篤磨——」(『歴史に学ぶ明治期アジアへのまなざし——よりよき関係構築をめざして——』、霞山会、2017年12月)。
 斉藤彦徳『三河国軍物語』(アトリエa.ma.) 翻刻版推薦文(2017年9月)、「愛知大学地理学教室時代の吉野正敏先生」(『吉野正敏先生の思い出』、筑波大学吉野正敏先生顕彰会、2017年9月)、「愛知大学記念館——文化庁登録有形文化財——」(『教育旅行』、2017年11月)、「「過疎」から「限界集落」への転用」他全7回(『神戸新聞』夕刊、2017年9-12月)。「愛知大学豊橋校舎の立地と豊橋地域のあり方」(愛知大学豊橋校舎の活性化・利活用を考える会、2017年5月16日)、「幕末期に上海を訪れた藩士たちと岸田吟香の行動空間」(歴史地理学会第60回大会記念公開講演会、2017年6月17日)、「豊川下流域の霞堤について」(国土交通省豊橋河川事務所他、2017年7月8日)、「南信州・遠山郷への招待——歴史的文化軸、霜月祭と「遠山」郷」(三遠南信地域の文化を語る会、2017年10月17日)、「書院生の見た近代東アジア——東亜同文

書院大旅行再考」(「東亜同文書院と東アジア——「大旅行」「従軍」「学徒出陣」——)、日本現代中国学会第67回全国学術大会、愛知大学、2017年10月29日)、「豊川放水路と豊川下流域について」(国土交通省豊橋河川事務所他、2017年11月5日)、「豊橋・田原・豊川稲荷現地巡検」(全国大学史協議会愛知大学大会、2017年11月13日)、「450年目を迎えた松原用水の展開と用水地域の地域像変化」(愛知県農業科、松原用水土地改良区、2017年12月2日)、「東亜同文会——教育者としての近衛篤磨——」(「Think Asia—アジア理解講座」シンポジウム「明治期アジアへのまなざし——よりよき関係構築を目指して——」、立命館アジア太平洋大学、2017年12月10日)。「平成大合併の功罪——愛知県富山村——」CBC取材。国土交通省河川功労賞、日本地理学会名誉会員受賞。

馬場 毅

趣旨説明「東亜同文書院、アジア主義、対日協力政権——『近代日中関係史の中のアジア主義』『書院生、アジアを行く』『対日協力政権とその周辺』——」(中国現代史研究会、愛知大学、2017年12月17日)

武井 義和

「大村欣一東亜同文書院教授の中国認識——1910~20年代の研究とその特徴——」(『近代日本の大概認識Ⅱ』、彩流社、2017年8月)、「大村欣一思想について」(中国現代史研究会東海地区11月例会、愛知大学、2017年11月18日)

石田 卓生

「大内隆雄和东亚同文书院」(『伪满时期文学資料整理与研究 研究卷 伪满洲国文学研究在日本』、哈尔滨 北方文艺出版社、2017年)、「戦前日本の中国語教育と東亜同文書院大学」(『歴史と記憶』愛知大学国研叢書、2017

年11月)。「『華語萃編』初集にみる東亜同文書院中国語教育の変遷——統計的手法を援用した分析」(『中国研究月報』Vol.72 No.2 (840)、2018年2月)、「今泉潤太郎先生に聞く——愛知大学入学から中日大辞典編纂処へ——」(『日中語彙研究』第7号、2018年3月)。「東亜同文書院の中国語教育活動——同文書院生使用のテキスト・ノートを手がかりとして」(中国人留学生史研究会第54回各台例会「東亜同文書院と日中関係」、神奈川県、2017年9月30日)、「1937年、書院生従軍について——第34期生原田実之の記録を中心に——」(「東亜同文書院と東アジア——「大旅行」「従軍」「学徒出陣」——」、日本現代中国学会第67回全国学術大会、愛知大学、2017年10月29日)

野口 武

書評『書院生、アジアに行く』(「東亜同文書院、アジア主義、対日協力政権——『近代日中関係史の中のアジア主義』『書院生、アジアに行く』『対日協力政権とその周辺』——」、中国現代史研究会、愛知大学、2017年12月17日)

森 健一

「東亜同文書院大学学生の学徒出陣について」(「東亜同文書院と東アジア——「大旅行」「従軍」「学徒出陣」——」、日本現代中国学会第67回全国学術大会、愛知大学、2017年10月29日)

田辺 勝巳

「東亜同文書院45年+愛知大学70年を伝える愛知大学記念館の公開活動をプロデュースして——全国49番目に旧制大学として創立した愛知大学のブランドアップのために——」大学教育研究フォーラムin東海2017、金城学院大学、2017年3月25日)
「旧制大学として創立した愛知大学の創成期——新制大学への移行期も顧みて——」

(全国大学史資料協議会2017年度総会・全国研究会、愛知大学、2017年10月12日)

「愛知大学記念館と東亜同文書院大学記念センター」(名古屋大学大学文書資料室ニュース第35号、2018年3月)

〔販売刊行物〕

愛知大学東亜同文書院大学記念センターシリーズ (2017年3月以降)

三好章監修、広中一成、長谷川怜編『方鏡山浄園寺所蔵藤井静宣写真集』社会評論社、2017年3月

愛知大学東亜同文書院大学記念センター叢書 馬場毅編『近代日中関係史の中のアジア主義——東亜同文会・東亜同文書院を中心に』、あるむ、2017年3月

加納寛編『書院生、アジアに行く——東亜同文書院生が見た20世紀前半のアジア』、あるむ、2017年3月

佐藤恭彦、藤田佳久編『日本人学徒たちの上海——上海日本中学校生と東亜同文書院生』、あるむ、2017年12月

三好章編『アジアを見る眼——東亜同文書院の中国研究——』2018年3月、あるむ

愛知大学東亜同文書院大学記念センター 東アジア仏教運動史研究会編『真宗大谷派浄園寺所蔵 藤井静宣関連資料 (目録と解説)』、あるむ、2018年3月

来春「食農環境コース」開設予定 愛大豊橋校舎

開学の志 形変え実現へ

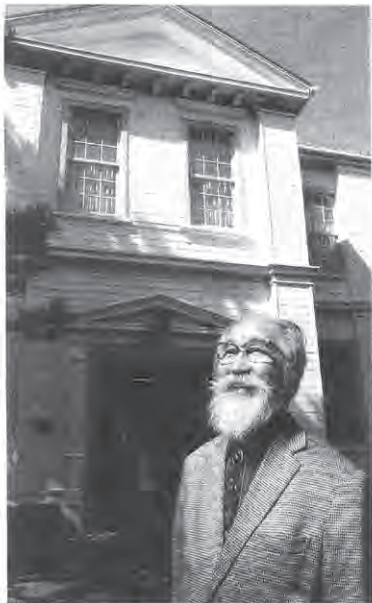
幻の「農学部構想」東亜同文書院の面影―有能な農業指導者育成夢見て

愛知大学豊橋校舎にある地域政策学部には現在、こうした動きとともに歴史をかかげれば、愛知大創立当初が実は農学部設置を模索する構想があったという事実を、ほとんど知られていない。大学設立から70年余りを経て、開学の志が別の形となって実現する見通しとなり、豊橋校舎の再興を願う卒業生らの思いとともに地域の期待は高まってきた。

愛知大豊橋校舎の歴史

愛知大地域政策学部地域政策科には現在、公共政策▽地域産業▽まちづくり▽地域文化▽健康スポーツの5コースがある。2018年度これに「食農環境コース」が加わる。愛知大は新設コースのあり方をめぐって、早ければ5月中旬以降に発表する予定だ。この「コース開設に特別な感慨を抱く人がいる。OB（1953年卒）の越知専二（86）＝豊橋市＝は「10年ほど、時間や労力などを母校のために費やし、農学や環境学を学ぶ大学にしよう」と奔走してきた。

この発端は、越知さんが愛知大東亜同文書院大学記念センターの客員研究員を委嘱された



愛知大記念館と越知専二さん

2006年9月までさかのぼる。現在の愛知大と、戦前の中国に設立された愛知大の前身に位置づけられる東亜同文書院大学の関わりを研究する中で、越知さんは愛知大創立前から農学部を設置する構想があったことを知る。1946年に当時の文部省に提出された大学設立認可申請書には「地域の勢に即応し、将来農学部、水産専門部を設け」と記されている。また開学の際に集まった寄付金の内訳をみると、豊橋市からの50万円、現在の価値で2億円ほかに、新城市在住の富田實平氏から30万円、同氏が社長を務める日本農産化学研究所から20万円の寄付があった。明らかに農学部設置を期待したのだ。越知さんは語る。



本間氏命と越知さん（1964年）、越知さん提供

当時の愛知大が農学部設置を模索していた痕跡は、ほかにもある。開学当初の豊橋校舎の地図をみると、かなりの広さの農場の存在が確認できる。また文芸学部ばかりの大学には不釣り合いなほど立派な化学実験室を備えていたとみられる。

施設面だけでなく、「農作指導教授」が在籍。三好四郎（こう）その学者は、東亜同文書院大学で農業研究員だった人物だ。ちなみに当時学内であった自然科学系の研究施設の後長を務めていたのは生物学者の大内義郎教授。後にフアンション評論家として活躍する大内順子さんの父親だ。

農学部構想を主導していたのは、終戦まで東亜同文書院大学長の職にあり、後身の愛知大でも第2代と第4代の学長を務めた本間賢二氏（1891～1968）だ。きょう5月9日は本間氏の30回忌の命日にあたる。

09年春、本間氏の親族が愛知大を見学しに訪れた。その際、本間氏の遺品を処分しようと考えられていると話を越知さんは耳にする。大卒創立に貢献した人物の貴重な史料が失われるのは危惧し、半年後に越知さんは山形県川西町にある本間氏の生家を訪ね、そこで見つけた手紙の中

に、開学に先立ち農学部の必要性を指摘する記述を見つけた。実際、本間氏は農学部設置を目指して努力したらしい。しかし1954年の愛大事件や63年の山岳部薬師岳遭難事故などが起き、本間氏は責任をとり学長を辞任。そのため「学部開設」についてはならなかった（藤田佳久・愛知大名誉教授。こうして農学部構想は眠裡に、いまに至っている）。

「創立者の精神を継承する本心だ」といいたい。OBの1人として越知さんは、本間氏の遺志を受け継ぎ決意を固めた。愛知大の開学の理念に有能な農業指導者の育成が含まれることを紹介する論文を発表したほか、同窓会や大学、父母会の協力を得て組織を立ち上げ、なぜ農学部が必要なのかを様々な角度から検証した意見書を取りまとめ、当時の学長宛てに送付した。

コンサルタンに依頼して、農学部の実現可能性がどの程度か調べてもらった。費用は越知さんが個人で負担した。さらにコンサルタンに農学部設置に向けた提言書の作成も依頼し、1500冊の冊子を印刷する予定で、こちらの出費も自腹だ。

越知さんが農学部を「建てただけ」で終わるのは、敬愛する本間氏の遺志を継いでもらいたくない。使命感だけが理由ではない。近年、豊橋校舎からいくつかの学部が名古屋に移転し、このままでは開学の地が寂れてしまっているのではないかと、越知さんは危機感を覚えている。

愛知大が2012年4月、名古屋市中村区のささしまライブ24地区に名古屋校舎を開校し、

豊橋校舎から経済学部と国際コミュニケーション学部などを移転した。その結果、豊橋校舎に残ったのは地域政策学部と文芸部、短期大学部で、単純計算で同校舎から約1500人の学生が減り、地域経済は少なからず悪影響をこうむるとされる。大学周辺がそのまま衰退していくのではないかと、越知さんが、特に地元には強く感じる。

豊橋市や田原市が日本有数の農業生産地であるという実情にかんがみれば、豊橋校舎に農学部ができるメリットは計り知れない。有能な農業指導者の育成を夢見る越知さんは、三遠南信地域、東三河、静岡県西部、長野県西部を含む地域から入学すると思つくと同じ通しを語る。日中の駆けつけとなるエリアを養成する名門リネアスクールだった東亜同文書院大学には、全国からえりやりの優秀生が入学した。越知さんは、コース新設をきっかけに愛知大が東亜同文書院大学のような、全国区の大学になつてほしいと願っている。

「食農環境コース」の新設を含めて、豊橋校舎を側面から支援しようという動きもみられる。同窓生や同校舎の地元住民、大学教員有志など。愛知大学豊橋校舎の活性化・利活用を考える会を5月中旬に立ち上げる。同会の発起人に名を連ねる別所興一・愛知大元教授は、豊橋校舎にとって「前進の機運が出てきた」と強調したい」と話す。今後は豊橋校舎をどのように活用するか、新たな方向性について議論する機会も目指している。

愛知大は1946年11月、旧制大学として豊橋市に設立された。開学から70年余りを経て、食農環境コースが新設される見通しとなり、越知さんは「大学創業者（本間氏）の精神を継承でき、愛知大、難しかったが無駄ではなかった」と喜ぶ。農学部の夢をあきらめず、ついに実現するまで待たせたいと、表情を浮かべる。

ただ、農学部の夢をあきらめず、ついに実現するまで待たせたいと、表情を浮かべる。様々な人たちの協力でコース開設までやっとならなければならぬ。越知さんは、愛知大創立時のような協力をしてもいいように努力しなければならない。越知さんは、地域で一体たがって機運を盛り上げ、開学の地・豊橋で愛知大がさらに存在感を高めていくことを切望している。

東奥日報 2017年7月7日(金)

県人の関わりも鮮明に

近着図書



☆「近代日中間関係史の中のアジア主義」馬場毅編 同センターが2012年本県とゆかりの深い愛知度から5カ年にわたり文部科学省の支援事業として行った共同研究のうち、「近代日中間関係の再検討」グループ6人の研究成果をまとめたもの。

愛知大学は、東亜同文会を設立母体とする東亜同文書院大学（上海を、終戦後に引き継いだ実質的な後継校。東亜同文会は陸羯南（弘前市出身）らの

件、孫文の惠州起義を経て「支那保全」へと舵を切り、義和団事件終結後も満州から撤退しないロシアに対抗するため近衛らが1900年9月に国民同盟会を結成して「支那保全」の美を挙げようとするまでの全体像を俯瞰している。

東亜同文会と近衛篤磨らの同文会が合併して1898年に設立され、羯南が初代幹事長、成田與作（同）が事務局と編纂局主任を務めている。

また、武井義和同センター研究員は、孫文側近の山田純三郎（同）の活動を、革命派の財政基盤確立に向けた資源開発に貢献するた



め日中交渉に尽力したとする、従来にはない視点から分析した。

それらの結果、羯南、日本人最初の中国革命の犠牲者となった山田良政（純三郎の兄）ら県人とその周囲

の人々が、急激に緊迫の度になった。ある月刊、税別2700円。き合ったかも、より鮮明に

（松田修一）



愛知大や前身の東亜同文書院大学の歴史を振り返る展示会＝浜松市中区のクリエート浜松で

愛知大の歴史紹介

前身の東亜同文書院大も 中区で書など展示

愛知大や前身の東亜同文書院大学の歴史を振り返る「東亜同文書院の七十年」愛知大学記念館所蔵コレクション展」が十一日、浜松市中区のクリエート浜松で始まった。十七日

東亜同文書院は一九〇一(明治三十四)年、中国・上海に創立された。日中友好に貢献する人材を輩出したが、四五年の終戦で歴史に幕を閉じた。翌年、当時の教員や学生の多くを受け入れる形で愛知大が誕生した。会場には、日本に持ち帰ることができた東

亜同文書院大学記念センター(愛知県豊橋市)が主催した。全国各地で開いており、静岡県内での開催は初めて。担当者は「県内の卒業生にも学校の歴史を振り返ってもらえれば」と話している。午前十時～午後七時半(十七日は六時まで)。 (土川翔大)

愛知大と前身の東亜同文書院 孫文らの書など80点 17日まで中区で展示会

戦後間もなく豊橋市で創立され70年を迎えた愛知大と、中国・上海で45年にわたり日本人学生を育成し同大の前身になった高等教育機関「東亜同文書院」の歴史を振り返る展示会が11日、浜松市中区のクリエート浜松で始まった。17日まで。 同大東亜同文書院大



愛知大が所蔵する孫文の書などを並べた展示会＝浜松市中区

学記念センター(豊橋市)が所蔵する、同院など約80点を並べた。創設に関わった近衛 敗戦と同院の閉校に家ゆかりの品々や孫 伴い教職員や学生が苦

心の末に接収を免れ日 本へ持ち帰った学簿簿 や成續簿のほか、同院 と静岡県との関わりを 解説するパネルなども ある。 初日は、同大の藤田 佳久名誉教授(元東亜 同文書院大学記念セン ター)による講演 会も行われた。 2006年以降、国 内外で開いている同大 の歴史などを紹介する 展示、講演会の一環。 展示は午前10時～午 後7時半。最終日は午 後4時まで。入場無料。

愛知大学創立70周年記念事業 東亜同文書院の45年 愛知大学の70年 浜松展示会・講演会 予約不要・入場無料

住所: 浜松市中区早馬町2番地の1 J&R浜松駅より徒歩10分

愛知大学記念館 所蔵コレクション展 7/11(火)～17(祝) ギャラリー35

10:00～19:30 最終日のみ10:00～16:00

- ・中華民国第3代・第6代大統領 黎元洪 書「一道同風」(1920年)
- ・東亜同文書院初代院長 根津一 書「至誠如神」
- ・犬養毅書「怒無怒(広い心があれば怒みこはないの意)」(第29代内閣総理大臣、1929年)
- ・東亜同文書院大学の学簿簿および成績簿(1901～1945年)
- ・接収されていた東亜同文書院の「華日辞典」原稿カード(1954年、愛知大学へ返還)
- ・孫文 書「山田良政先生墓誌」(1913年)、(天下高松)
- ・写真「孫文と山田純三郎」(1911年)、「孫文と宋慶齡」(1921年)
- ・愛知大学教科書・ノート(創刊期:1946年～)
- ・愛知大学創設者 本圖書一がGHQ名古屋軍政部に出した請願書など

講演会 7/11(火) 13:30～ ホール

- 13:40～「愛知大学70周年と更なるブランドづくりをめざして」 三好 章 (東亜同文書院大学記念センター長、現代中国学部教授)
- 14:10～「地域貢献と愛知大学～「知を愛し世界へ」と「地を愛し未来へ」～」 新井野洋一 (地域政策学部教授、前地域政策学部長)
- 15:00～「近衛家と東亜同文書院、そして愛知大学」 藤田 佳久 (愛知大学名誉教授、元東亜同文書院大学記念センター長)



愛知大学記念館所蔵コレクション 近衛家四代目、近衛高経書、近衛文房書、近衛文房書

主催: 愛知大学東亜同文書院大学記念センター 後援: 一般財団法人龍山会、愛知大学同窓会、公益財団法人愛知大学教育研究支援財団

【お問い合せ先】 愛知大学東亜同文書院大学記念センター 〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 TEL: 0532-47-4139 FAX: 0532-47-4196 E-mail: toa@ml.aichi-u.ac.jp



中日新聞 2017年10月12日(木)



「空へ向かう睡蓮」を前に解説する平松さん＝愛知大豊橋校舎で

日本画家平松礼二さん（モミジの名作が並ぶ）特別展示会が十一日、母校の愛知大豊橋校舎

日本の風景名作並ぶ

平松さん、母校愛大で絵画展

（豊橋市町畑町）で始まる。東三河や全国各地の風景画を中心に約八十点を展示する。十一日、平松さんも来場して開場式があった。

東京都出身の平松さんは県立旭丘高美術科を卒業後、愛知大法経学部（当時）に進学し名古屋校舎で学んだ。一九九〇年代からは、日本美術の影響を受け「ジャポニスム」を表現した十九世紀フランスの画家モネの拠点、パリ郊外のジベルニー村に通って創作に取り組んだ。今春には愛知大から名誉博士号を授与された。会場には紅葉が美しい「阿寺の七滝（三河）」や「一路・三河湾」などの風景画のほか、平松さんが十一年間にわたり雑誌「文芸春秋」の毎号に描いた表紙画の一部も展示している。

幅四尺のびよぶ絵「空へ向かう睡蓮」（二〇一六年）は初公開。モネが描いた池のスイレンを前に、桜の花とモミジの葉をちりばめた作品。開場式後、平松さんは「異なる四季を融合する感性は、西洋人にも理解してもらえた。日本人と

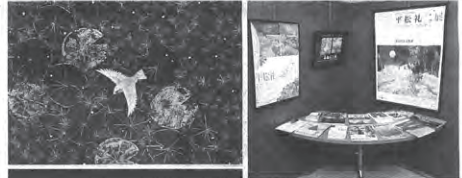
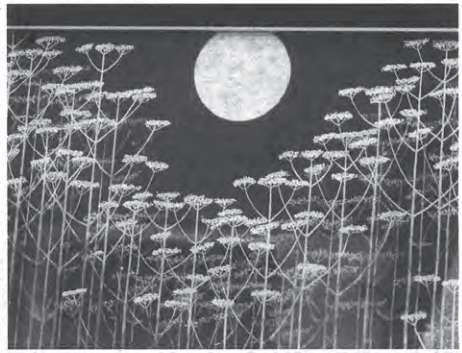
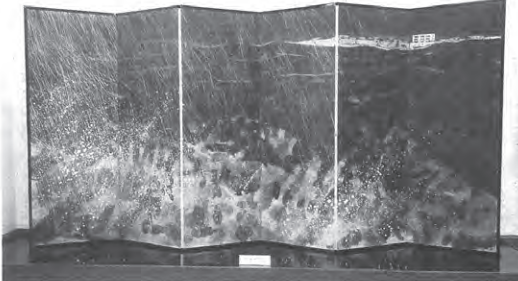
してジャポニスムの恩返しができる」と話し、展示は大学記念館で十一月十四日まで。日開館。入場無料。（阿部竹虎）

平松礼二画伯特別展示会を撮る

愛知大学創立70周年記念 名誉博士平松礼二画伯特別展示会「日本画から世界画へ」が、11月14日まで、愛知大学豊橋キャンパス大学記念館で随で行われている。日本美の特長を「精神性」と「装飾性」「様式性」に集約されると語る平松礼二さん。又「藝春秋」の表紙絵を10年にわたり担当。クロード・モネに触発されフランス・ジャポニスムを日本の美しさの中に表現した。日本はもとより、フランスやドイツなどでもその作品の色彩の美しさと装飾性などが高く評価されている。

今回の展示会では、平松さん自身が「私の長い画家生活のクイエスト」と紹介しているように、東海地方中心の作品や日本各地の作品、文藝春秋の表紙絵、フランス・ジャポニスム、中国取材中心作品など80点が紹介されている。

(撮影・文 新村猛)



朝日新聞（朝刊） 2018年2月28日（水）

戦時下 日本人学徒たちの上海

愛知大学の東亜同文書院大学記念センター叢書に、「日本人学徒たちの上海」（あるむ社）が加わった。副題は「上海日本中学校生と東亜同文書院生」。世界有数の大都市だった戦時下の上海で若者たちはどんな生活をしていたか。学校の授業や街の様子のほか、敗戦による引き揚げや戦後の再訪を記録した文章を、それぞれの同窓会報などから再編集した。

あまり知られていない事実も載っている。敗戦時、上海日本中学校は「御真影、教育勅語、校旗を焼却」して閉校する。しかし2カ月後、生徒を4地域に分けた「寺

愛大同文書院叢書に新作

子屋式の学校」が開設される。中国軍が上海を接収し、日本人が身の危険を感じる混乱の時期にも、学ぶ場所が確保されたのだ。

寺子屋は、「補習室」や「童話会」の名称で引き揚げが完了する3年後まで続いた。対外的な配慮から「童話会」と命名したのは内山完造だった。「学生のオアシス。内地の発禁本がちゃんと棚に並んでいた」という内山書店の経営者として知られる人物だ。

書院生は主に本土からの学生だったが、「上中」の生徒のほとんどは上海育ちだった。家業が旅館だった生徒は、陸軍を慰問した歌手の渡辺はま子の目撃談を書いている。宴会の余興に歌を注文した将校を相手に「酒宴の座興には歌わない」とたんかを切り、大騒ぎになったという。そんな逸話もいくつか載っている。314頁。2千円十税。あるむ（052・332・0861）。（佐藤雄二）

